

CREDIT

◆審査委員会

審査委員長 松葉 直彦 (テレビマンユニオン)

ドキュメンタリー部門 審査委員

三井 貴美也 (ディレクターズ東京)
久保田 暁 (スローハンド)
永井 朝香 (ドキュメンタリージャパン)

情報・バラエティ部門 審査委員

長濱 薫 (日テレ アックスオン)
堀江 昭子 (ハウフルス)
光原 朋秀 (mK5)

ドラマ部門 審査委員

霜田 一寿 (ザ・ワークス)
加藤 章一 (TBS スパークル)
零石 瑞穂 (テレパック)

◆新人賞

審査委員長 大野 光浩 (えすと)
審査委員 荒河 七子 (東阪企画)
榎本 雪子 (オルタスジャパン)
加藤 信 (大河プロダクション)
桑山 ゆうり (ジッピー・プロダクション)

◆総務大臣賞

審査委員長 吉村 文雄 (東映)
審査委員 井口 高志 (電通)
品田 英雄 (日経BP)
長谷川 朋子 (放送ジャーナル社)

第38回 ATP 賞テレビグランプリ受賞式

2022年7月12日(火)
六本木ヒルズハリウッドホール

司会・進行

佐藤俊吉 (NHK)
岩本乃蒼 (日本テレビ放送網)

主催

一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟

後援

総務省、経済産業省、
日本放送協会、日本民間放送連盟

40th
ANNIVERSARY
ATP
SINCE
1982

ATP AWARD

2022

ASSOCIATION OF ALL JAPAN
TV PROGRAM
PRODUCTION COMPANIES
AWARD

▶▶ 第38回 ATP 賞テレビグランプリ
受賞作を振り返る

創り手が選ぶ
創り手のための賞!



THE 38TH GRAND PRIX

ETV特集

「“玉碎”の島を生きて～テニアン島 日本人移民の記録～」

グループ現代、NHKエンタープライズ / NHK Eテレ

40th
ANNIVERSARY
ATP
SINCE
1982

グランプリ THE 38TH GRAND PRIX

● ドキュメンタリー部門 ● **最優秀賞**

ETV特集
**「“玉碎”の島を生きて
 ~テニアン島 日本人移民の記録~**
 グループ現代、NHKエンタープライズ / NHK Eテレ



演出・撮影 太田 直子(グループ現代)
 ナレーション 太田 直子(グループ現代)
 撮影 家塚 信 / 編集 井上 秀明(イマージュ)
 音効 井田 栄司(TBSアクト) / イラストCG 福島 あんず(moi)
 制作統括 東野 真(NHK)、太田 宏一(NHKエンタープライズ)、
 田野 稔(グループ現代)



受賞者コメント

日本占領下の旧南洋群島で地上戦に巻き込まれ、「集団自決」においやられた民間人が多数いたことを、何とか記録に残したいと2002年に小型のビデオカメラを購入してから、関係者の方を訪ね、また慰霊の旅に同行し、映像取材を続けてきました。長くこの地域の歴史を研究されている今泉裕美子氏に協力いただきながら、とにかく体験の方が生きているうちにと共同で記録をしてきたことが、今回の受賞につながりました。取材の過程では思い出すのが辛いからと撮影を固辞されることもよくありました。忘れ

たい記憶を言葉にしてくださいました皆様に、そして記録した映像を作品として世に出すにあたり、尽力してくださいました最高のスタッフに心より感謝申し上げます。この番組が、いまなお止まぬ戦争を嫌ishi、抑止する力になることを切に願います。それが証言してくださった方々への最大の御恩返しになると思っています。

ディレクター 太田 直子(グループ現代)

講評

映像に映るもの、そこには映らないもの、すべてに圧倒され、目が離せない。地獄という言葉では足りないほどの地獄、それを身の内に抱えながら生きる、途方ない厳しさ。時間、記憶、労苦…姿や形は捉えられないはずのものが、重く押し掛かる。「時代の証言」を超え、死とは、生きるとはどういうことかを思い知る。人と共に消え去るはずの断片を拾い集め、ときに託されながら続けた取材者の「旅」の歩みに、心からの賛辞を呈する。

永井 朝香



最優秀賞 THE 38TH BEST AWARD

● 情報・バラエティ部門 ●

ヤギと大悟

シオン/テレビ東京



企画・演出 富田 大介(シオン)
 ディレクター 菅谷 陽介(シオン)、倉本 華奈(シオン)
 プロデューサー 沼能 亜弥(シオン)、持山 勇太(テレビ東京)
 構成 飯塚 大悟

受賞者コメント

番組冒頭1分、雑草を食べるヤギしか映らない「ヤギと大悟」。そしてヤギが満腹になったらロケ終了という本当にゆるい企画。ただ、こんなご時世だからこそ、大悟さんの温かみやヤギファーストな雰囲気皆をちょっと癒し、番組を愛して頂けたのかなと感じます。この受賞はクリエイターとして大変光栄です。この賞を励みにこれからも素晴らしいスタッフ陣と情熱を注ぎ、愛ある作品を生み出していきます。有難うございました。

企画・演出 富田 大介(シオン)

講評

「くだらない！」が誉め言葉のバラエティ王道企画。ヤギが主役のバラエティ!? ヤギが千鳥・大悟を引き連れて、雑草に困った人々をお助けする「ぶらり旅バラエティ」しかもヤギの除草が燃料要らずでSDGsにも一役買っている。予測不可能なヤギに対して強面キャラの大悟が意外と動物愛に溢れているシーンも感動。こんなくだらないゼロからイチを生み出す創り手に感服。視聴後、「明日も楽しいことが必ずある」と思わせてくれる番組。

長演 薫

最優秀賞 THE 38TH BEST AWARD

● ドラマ部門 ●

金曜ドラマ 最愛

TBSスパークル/TBS



脚本 奥寺 佐渡子、清水 友佳子
 音楽 横山 克
 プロデュース 新井 順子(TBSスパークル)
 演出 塚原 あゆ子(TBSスパークル)、山本 剛義(TBSスパークル)
 村尾 嘉昭(TBSスパークル)

受賞者コメント

この度は素晴らしい賞を頂きありがとうございます。このドラマは約10年一緒に組んできたスタッフで、オリジナルサスペンスに挑戦しようと始まった企画です。これまでの経験を生かし、視聴者を飽かさせない展開が早いストーリー、複雑だけど感情は分かりやすく、毎週金曜日が待ち遠しくなるドラマを目指しました。現場では色々なアイデアが飛び出し、よりリアルで感情豊かな作品になりました。スタッフ、キャストが一丸となり取り組んだ作品の受賞、本当に嬉しく思います!

プロデューサー 新井 順子(TBSスパークル)

講評

気づかないうちに違う景色の中で、別の登場人物の感情に引きずりこまれて、監督や脚本家の思う壺に嵌ってしまった。実際には聞いてみないと分からないが「そう思わせるが、語りきれない見せ切らない」作りで「最愛を浮き彫りに」していると感じた。その意図をキャスト・スタッフが様々な制約をもろともせず、設計図に基づき手練れの技を惜しげもなく繰り出し独特の物語の流れを作り出した、羨ましくリスペクトに値する作品でした。

霜田 一寿

ドキュメンタリー部門

BSIスペシャル カノン ～家族のしらべ～ 2017-2021
安里愛美(フリーランス) / NHK BSI



受賞者コメント

「家族とは何か?」という素朴な疑問から始まり4年間、特別養子縁組で結ばれたご家族を取材させて頂きました。家出、妊娠、出産、別れ…ジェットコースターのように状況が変化したり日々。そこには、どんなにぶつかり続けても、かたちを変えながら繋がり合おうとする

家族の底力がありました。主人公が奏でる「カノン」には、そんな家族のあり方が重なっているように感じます。ご家族のお幸せを折りつつ、支えてくれたスタッフに心より感謝いたします。

ディレクター 安里愛美

講評

家族のカタチが変化してゆく4年間。そこにカメラがいたことだけでもすごいことだ。軌みは始める親子関係から、若い夫婦に訪れる試練まで。その機微を丁寧に汲み取った取材は、圧倒的な説得力を持っていた。それぞれが抱える葛藤や寂しさ。いつも多くを語らない

母親が、家族会議で口にした言葉にはぐっと胸を締めつけられた。きれいごとだけでは語れないのが家族。ときに残酷で、ときに美しくもあるのだと改めて気づかされた。

久保田 暁

制作統括 堀川 篤志(NHK)、西岡 重徳(NHK)
ディレクター 安里 愛美
撮影 駒形 明子(NHK)
編集 寺澤 昌子(映像プロ)
音響効果 高石 真美子(NHK) / 音声照明 鎌山 瑞希(Vision I)

ドキュメンタリー部門

ザ・ノンフィクション 結婚したい彼女の場合 ～コロナ禍の婚活漂流記～ 前編・後編
バンエイト / フジテレビ



受賞者コメント

婚活の現場は時代を映し出します。本作は主人公のミナミさん(仮名)との出会いがなければ成立し得ないものでした。「自分を変えたい」という覚悟で出演を決め、カメラの前でも飾ることなく率直に自分を表現する彼女に応えるために、「生半可な取材をしてはいけな

い」と日々感じていました。自分の弱さや欠点と向き合って成長を遂げ、今彼女は幸せな結婚生活を送っています。心よりの御礼と末長のお幸せを願っています。

ディレクター・構成 八木 里美(バンエイト)

講評

コロナ禍で変化する結婚観を切り口に、人生の岐路に立つ女性の心模様を描く。そこには普遍的なテーマが散りばめられていた。「結婚したい」という漠然とした思いを具現化していく過程も目からウロコ。さらに、こちらの想像の斜め上をいく展開に目が離せなくなっ

た。「婚活」という極めてプライベートなことを、さらけ出してもいいと思わせた取材者の関係性づくりの巧みさは、なかなか真似できるものではないと敬服した。

久保田 暁

取材・構成・演出 八木 里美(バンエイト)
プロデューサー 西村 陽次郎(フジテレビジョン)
語り 水原 希子(Office Kiko)

ドキュメンタリー部門

お母ちゃん和小雁 ～認知症の喜劇役者 再び舞台へ～
東京ビデオセンター、NHKエデュケーショナル / NHK Eテレ



受賞者コメント

「小雁さんが最期に神様から与えられた役目があるんやと思う」
妻の寛子さんが、私に伝えてくれた言葉です。かつての喜劇スターが、病によって我を忘れて激怒し、オムツ介助の姿をもさらけ出す。明るい笑顔の裏にある、覚悟。2人の心意気に感謝です。

お母ちゃん和小雁さんに、この賞を捧げます。

ディレクター 演説 由紀子(東京ビデオセンター)

講評

お母ちゃん和小雁さん。ふたりのことが好きでたまらなくなる。
何気ない日常にある表情に惹きつけられるのは、眼差す取材者の慧眼によるのだろう。ヒトの複雑なままを描く、その色合いが絶妙である。軽妙洒脱、ユーモラスな姿は「明色」で。老

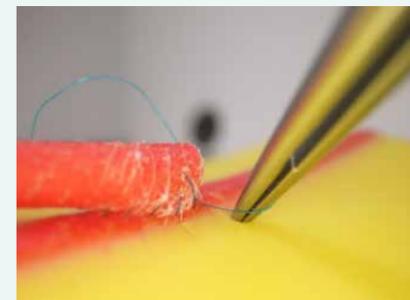
いと病がもたらす不安に揺れる様を「暗色」で。それぞれの色は打ち消さず、組み合わせられて人物を造形し、喜びと悲しみを表裏一体に感じる。誰かと共に生きること、それを考える。

永井 朝香

撮影 宮川 公一郎(ファーストハンド)、寺田 忠司 / 音声 諸井 明彦(ヌーベルアージュ)
映像技術 白木 花代(ヌーベルアージュ) / 編集 前島 健治(ギトリ)
音響効果 成田 純一(創音) / ディレクター 演説 由紀子(東京ビデオセンター)
プロデューサー 小林 麻衣子(東京ビデオセンター)
制作統括 田中 敦晴(NHKエデュケーショナル)、大坪 悦郎(NHK)

情報・バラエティ部門

ニッポン知らなかった選手権 実況中! 第2回 冠動脈吻合技術競技会
東京ビデオセンター、NHKエデュケーショナル / NHK BSプレミアム



受賞者コメント

構成作家の若尾さんが持ち込んでくれたアイデアを、番組企画として立ち上げたのは2016年。総合テレビの開発枠で放送されたのは翌年のことだった。その後2本制作したがレギュラー化ならず、一度は消えかける。しかし、この番組を終わらせたくないという思い

から尾関CPと共に粘り、2年後にBSで復活。スタッフの努力で番組の評価が高まり、今年総合でレギュラー番組に。足掛け7年、頂いた賞はまさにご褒美だと感謝している。

プロデューサー 佐々木 伸之(東京ビデオセンター)

講評

「フンゴー技術?」…Vを見る前の私は戸惑った。
大門未知子ですらそんなこと言ってなかったよね?と困惑しながら見始めたのも束の間。すぐに素晴らしい医療の世界に魅せられた。難しい話を、よくぞこれだけのエンタメに仕

立て上げたな、と感服。テンポ感、メリハリもちゃんと付くうまくとめ上げられている。「お医者さんもひとりの人間」という大事な部分も散りばめ、医療に親近感を持てる番組になっていた。

堀江 昭子

構成 若尾 守重
ディレクター 合津 貴雄(東京ビデオセンター)
チーフディレクター 佐藤 成幸(東京ビデオセンター)
制作統括 佐々木 伸之(東京ビデオセンター)、尾関 憲一(NHKエデュケーショナル)
坂元 信介(NHK)

情報・バラエティ部門

経験は知識に勝るのか!? クイズ!カズ&宇治原をぶっ飛ばせ
共同テレビジョン / 関西テレビ、関西ローカル



受賞者コメント

この度は、素晴らしい賞をいただき本当にありがとうございます。今回、私たちが出会った「6人の経験者さん」は、本当に凄いな経験がされている超魅力的な方々ばかりでした。何か月にも渡って考案してくださったクイズは、インターネットには載っていない「面白いク

イズ」ばかり!一緒に戦ってくださり、本当にありがとうございました。これからもカズさん・宇治原さんをぶっ飛ばしていきたいと思

プロデューサー 澤田 和平 (共同テレビジョン)

講評

80分近くのクイズ番組で、出題数が6問。かなり少ない。でも、「スーパー仲人」や「カリスマ添乗員」などの突き抜けた人物とスタッフがいっしょに、たった1問のクイズを考案するプロセスそのものに、「なんで!?!」と「へえ〜!」が

治原、MCのノブコブ吉村&橋本アナナ諸氏の駆け引きも、いちいち楽しい。そうか、クイズ番組は「考えなくなる時間」をつくり出すこと、なのか。

光原 朋秀

プロデューサー 脇田 直樹(関西テレビ放送)、澤田 和平(共同テレビジョン)
総合演出 吉川 亮太(関西テレビ放送)
演出 吉村 慶介(共同テレビジョン)
ディレクター 山本 泰輔(オラフス)、阪口 悠樹(オラフス)、岩野 直人、新谷 辰雄
構成 竹村 武司、河野 有、市川 拓実、仲内 力也

ドラマ部門

プレミアムドラマ しずかちゃんとパパ
AX-ON / NHK BSプレミアム、NHK BS4K



受賞者コメント

結びつきの深い父娘で「花嫁の父」をやりたくてこの設定に至ったので、ハンディキャップのドラマ、という発想がなかった。聞こえない「ろう者」と聞こえる子「コーダ(Children of Deaf Adult/s)」であることは二人のキャラクターや関係性にはとても重要だけれど、まず

父であり娘であることが先でした。結果、特別なはずなのにどこにもいる、すてきな親子になりました。思いがけず栄えある賞までいただけ、嬉しく誇らしいです。

制作統括・演出/松原 浩 (AX-ON)

講評

「ろう」というテーマを決めて道具として使わず、徹底的な考証・取材をもとに良質なホームドラマを作り上げ、一つの「家族の形」を表現しきった制作者の皆様の胆力を感じる、力強い作品でした。家族は喧嘩もするし傷つけあう事もあるけれど、根底には計り知れない思

いやりがある。その「当たり前」な幸せを再認識させてくれます。笑福亭鶴瓶さんの手腕は勿論、吉岡里帆さん・中島裕翔さんなどの瑞々しいお芝居もとても素敵でした。

壺石 瑞穂

作 蛭田 直美(ディブレックス) / 音楽 村松 崇継(Story Music Tellers)
制作統括 海辺 凜(NHK)、松原 浩(AX-ON)
演出 松原 浩(AX-ON)、茂山 佳則(AX-ON)、岩本 仁志(AX-ON)
プロデューサー 戸倉 亮爾(AX-ON)

ドラマ部門

忠臣蔵狂詩曲No.5 中村仲蔵 出世階段
オットイモ、NHKエンタープライズ / NHK BSプレミアム、NHK BS4K



受賞者コメント

ドラマの舞台は、ロンドンのウエストエンドと並び、当時世界屈指の演劇街の一つであった日本橋の堺町(ブロードウェイはまだ草っぱらでしかない)。私はかねがね、この芸能のエネルギーに溢れた街で、芝居という魔物に魅せられた人間たちが繰り広げる群像劇を作ってみたかった。仲蔵はその先頭を、脳目も

ふらず駆け抜けたトップランナーである。主演の仲蔵を演じる役者は、企画を思いついた当初から中村勘九郎しか考えられなかった。彼がキャスティングできなければ、やっていなかったと思う。

脚本・演出 源 孝志 (オットイモ)

講評

初代中村仲蔵が裸一貫から成り上がっていく下克上物語を、エンターテインメント作品として見事に昇華させた力作!歌舞伎初心者でも歌舞伎ファンでも楽しめるストーリー展開と、熱気と臨場感溢れる演出で、登場人物たちを生き生きと描ききった制作陣の努力と研究

に敬意を表します。また芝居小屋の巨大セットや楽屋、奈落など江戸歌舞伎の世界観を再現した美術スタッフの力量には驚きすら感じた。心から拍手を贈りたい。

加藤 章一

脚本・演出 源 孝志(オットイモ) / 音楽 阿部 海太郎
撮影 朝倉 義人(東映) / 美術 小出 憲(東映)
プロデューサー 川崎 直子(NHKエンタープライズ)、八木 康夫(オットイモ)、森井 敦(東映)
制作統括 宮坂 佳代子(NHK)、伊藤 純(NHKエンタープライズ)、八巻 薫(オットイモ)



優秀賞 OUTSTANDING PERFORMANCE AWARD



プロデューサー 藤村 恵子(テレビマンユニオン)
三毛 かりん(テレビマンユニオン)
総合演出 佐野 達也(テレビマンユニオン)
ディレクター 小林 直希(テレビマンユニオン)
制作統括 藤田 英世(NHK)
佐藤 健(NHKエンタープライズ)

NHK-BSプレミアム
特番 希林と裕也 トリックスター夫婦の昭和平成史
テレビマンユニオン、NHKエンタープライズ / NHK BSプレミアム

受賞者コメント

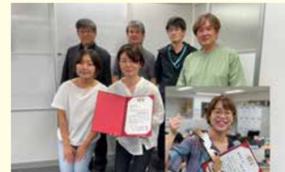
今回の受賞。お会いしたことはないけど、樹木希林さんと内田裕也さんからのご褒美ではないかと思っ
ている。というのも、制作中はすぶる緊張の日々を強
いられた。「私たちふたりを描くのであれば、中途半
端な出来栄では許さない」というプレッシャーを
かけられ続けたからだ。会う人会う人、曲者だらけ。
酒量は増えて、睡眠時間は減った。そして請れての受
賞。「まあ、頑張った方ね」と希林さん。「ロケンロー
ル！」と裕也さん。

演出 佐野 達也
(テレビマンユニオン)

講評

個性派女優と型破りなロックスターの物語が面白
くないわけがない。昭和平成の芸能史を見るかの如き
構成は、二人が良くも悪くも長年話題の中心にいた
ことの証。それは証言者の豪華な顔ぶれからもよく
わかる。「夫婦とは何か？」付かず離れずの風変わり
な二人は教えてくれる。純なものがひとかけらでも
あれば良いのだと。希林さんが他界して半年後、後を
追った裕也さんの純情が切ない。一人娘・也哉子さん
の語りも心に染みる。

三井 貴美也



プロデューサー 松永 真一(NHK)
牧野 望(NHKエデュケーショナル)
前川 誠(オルタスジャパン)
ディレクター 二木 まさ美(オルタスジャパン)
アシスタント・ディレクター 榎本 雪子(オルタスジャパン)
高橋 明香(オルタスジャパン)

BSIスペシャル
五輪の厨房密着800日 選手村食堂の秘められたドラマ
オルタスジャパン、NHKエデュケーショナル / NHK BSI

受賞者コメント

東京大会の延期が決まった時、これから撮影が続け
られるのか？番組スタッフは目に見えない大きな渦
の中でもがいていました。しかし、エムサービスの
皆さんは苦しい中でも自身の仕事に誇りをもち「自
分たち以外誰がやる」と歩みを進める姿が「彼らを最
後まで見届けたい」という思いを貫かせてしてくまし
た。4年に亘って過酷な状況の中、ご協力頂いた食堂
関係者の皆さん、全国の生産者の皆さんに感謝と敬
意をお伝えしたいと思います。

ディレクター 二木 まさ美
(オルタスジャパン)

講評

バブル方式と呼ばれる感染防止対策によって選手達
は外部との接触を断たれ、競技が終わると観光をす
ることもなく祖国へ帰っていった。そんな外国人選
手達にとって選手村の食堂の料理は唯一の楽しみ
だったに違いない。大会期間中、選手達の胃袋を支え
た巨大レストランの知られざる舞台裏。コロナに翻
弄される裏方達の苦悩と苦勞が克明に記録されてい
る。長期に渡ってカメラを向け続けた制作陣の根気
強さに敬意を表したい。

三井 貴美也



制作統括 宮本 祥子(NHK)
田島 徹(NHKエデュケーショナル)
ディレクター 藤村 奈保子(NHKエデュケーショナル)
撮影 岡野 崇(NHKテクノロジーズ)
音声 向井 健造(ビジョンワン)
編集 橋本 和子(ビデオ・ベディック)
音響効果 田中 啓子(エルールサウンズ)

BSIスペシャル 福島モノローグ 完全版
NHKエデュケーショナル / NHK BSI

受賞者コメント

ある日、自分自身を支えていたもの、大切にしてきた
もの、心のより所を失った時、人は何を足がかりに自
分を取り戻すのか。原発事故後、取り残された動物
達のためただ一人、故郷にとどまった松村直登。未だ
1割の住民しか戻らず、復興の名のもと産業界や
太陽光発電施設に変わっていく町は、震災・原発事故
に続く、「二度目の喪失」のさなかにある。激変する
風景の中、松村が見出した最後の「宝」は、故郷の大
地だった。コロナ禍、戦争一。さまざまなものが破壊
されていく現実の中、「再生」を決して諦めない一人
の男の姿から、私たちが歩み出すべき次の一歩に思
いをめぐらせてほしい。

ディレクター 藤村 奈保子
(NHKエデュケーショナル)

講評

破壊された日常。時を経ても薄れることのない、しか
し静かな「痛み」が映し出される。
眼前の現実揺れ動く主人公・松村さんの傍らに
あって、取材者が共に戸惑い、喜び、明日の希望を祈り
ながら日の出を見つめる息遣いが聞こえるようだ。
日常が変わろうとも奪えない、内なる豊かさが四季
の風景に重なる。故郷の大地に根を張り、他を育む生
活者とは、哲学者か、詩人のようでもある。その声色
は多弁ではないが、きわめて雄弁である。

永井 朝香



プロデューサー 井手 真也(NHK)
惣部 潔(テレビ朝日映像)
チーフディレクター 佐藤 剛(テレビ朝日映像)
ディレクター 植松 一裕(テレビ朝日映像)
阿部野 見久(テレビ朝日映像)
蛭間 鉄平(テレビ朝日映像)
構成 河合 秀仁

BSIスペシャル マッカーサーが来るまでに何があったのか？
市民たちが見た終戦直後の15日間
テレビ朝日映像 / NHK BSI

受賞者コメント

幾つかの歴史番組を作ってきた興味も知識もあるつ
もりでしたが、この「終戦後の15日間」の事は知りま
せんでした。戦後75年以上が経過して、今は「時間と
の闘い」となる終戦企画、調べ始めると、資料となる
物が全く無く、一からのリサーチとなりました。そし
て出来上がってみると、日本人の遅さを再認識す
る事になったのです。個人的には61歳にして「念願
の企画」実現！ご協力を頂いた皆さんに改めて御礼
を申し上げます。

プロデューサー 惣部 潔
(テレビ朝日映像)

講評

マッカーサーを取り上げる番組が多々ある中で、「終
戦直後から来日するまでの空白の15日間」に焦点を
絞る発想が秀逸。そこには、混沌とした街中でひたむ
きに生きる…遅しい日本人の姿があった。僅か15日
間で日本が更なる「近代化への道標」を築くことが理
解できる。また戦後日本、復興の姿もイメージショ
ンできる。世界情勢が混沌している今だからこそ日
本人に勇気を与えてくれる作品となっている。

長濱 薫



プロデューサー 山崎 勝(IVS41)
総合演出 新井 勝也(IVS41)
演出 大田 善紀(IVS41)
ディレクター 斎藤 龍二(IVS41)
山田 航己(IVS41)
花岡 諒(IVS41)
笹岡 京志朗(IVS41)

X年後の関係者たち あのムーブメントの舞台裏
IVS41 / BS-TBS

受賞者コメント

この度は榮譽ある賞を頂いたことに、感謝申し上げ
ます。「ブームを起こした関係者の貴重な証言を今の
うちに残しておきたい」そんな想いから生まれた企
画です。プロデューサーと演出以外は、当時を知らない
20代のスタッフ。初めは興味がないテーマでも、
取材を続けるうちに熱を帯びてくる。その反応が、番
組作りの手応えになっています。視聴者の方にも、世
代を超えて会話のきっかけになるような番組を目指
していきたくと思います。

総合演出 新井 勝也
(IVS41)

講評

「こんな舞台裏の話なら、ずっと聞いていたい！」と
思えたのは、私が世代的にドンピシャだったから、だ
けでは決してない。『X年後の関係者たち』…の関係
者たちが、「消費社会特有のブームの、歴史的意味を
自ら見出す」という、険しい道をあえて突き進んだか
らだ。しかも、毎週60分のレギュラー番組で。あの瞬
間風速的な熱狂は何だったのか。まだできていな
かった総括のすき間を、番組の作り手たちが埋めて
くれた。

光原 朋秀



企画・プロデューサー 中笠 勝之
(読売テレビ放送)
橋 庸介
(レジスタエックスワン)
演出 辻 あゆみ(レジスタエックスワン)

たとえるバラエティ クイズ!鼻からスイカ
レジスタエックスワン / 読売テレビ発 日本テレビ系列 地上波全国ネット

受賞者コメント

MCに「たとえツッコミ」のスペシャリスト、フットボ
ールアワーの後藤さん、そんな後藤さんに「瓜二つ」の
A.B.C-Z 河合さんを迎え、フットボールアワー岩尾
さんを始め個性豊かな回答者の皆さんで番組が出来
上がりました。
このような素晴らしい賞をいただけたのは出演者の
皆さんを始め番組作りに携わってくださったスタッ
フの皆さんの力だと思います。皆で今回の喜びを分
かち合い、次への糧としたいと思います。ありがとう
ございました。

演出 辻 あゆみ
(レジスタエックスワン)

講評

実に「ちょうどいい番組」。テレビが自由だった時代
の空気感が、ほんのり漂うのは何故だろう？頑張り
過ぎている感が出ていないので、見る側は気持ち良
いし、疲れない。テレビが疲弊している今こそ、この
「遊び心」や「バランス感がいい事」を称賛したい。
テロップや画面デザインも実に「ちょうどいい」。
POPなのに今のバラエティ番組にありがちな「エグ
さ」はない。
若い女性演出へのエールも込めて、一票を投じま
した。

堀江 昭子



制作統括 古屋 吉雄(NHK)
長澤 智美(テレビマンユニオン)
内田 俊一
(NHKグローバルメディアサービス)
ディレクター 榎本 泰西(テレビマンユニオン)
取材 平田 早季(テレビマンユニオン)
中村 朱里(テレビマンユニオン)
編集 細村 舞衣

最後の講義 小児外科医 吉岡秀人

テレビマンユニオン、NHKグローバルメディアサービス / NHK BSI

受賞者コメント

この番組で、何か特別な演出をしたわけではない。今回受賞できたのは、一重に吉岡さんの「言葉の力」である。以下、ご本人の受賞コメント抜粋。
「気の速くなるような単純行動の繰り返しから匠の技術も武道の技も磨かれていく。私のしてきた医療は単にそのようなものだったかもしれないが、いつの頃からその経験は私の中で言語化され様々な概念となって宿り始めた。時を得て、多くの人に私の経験が浸透していく瞬間、私は私の人生を肯定できる幸せに包まれるのだ。」

ディレクター 榎本 泰西
(テレビマンユニオン)

講評

「感性の声を聞け」。これにうなずける視聴者が何人いるだろう。まして、途上国で無償医療を続けてきた利他そのもののような人物の言葉となれば、なおさら。番組は、吉岡氏が人生の分岐点で耳を傾けた「感性の声」の数々を拾い上げた。それらが氏にとって、やっとの思いで絞り出された、一瞬一瞬の「最後の声」だったからだ。それはまさに番組名を体現していた。講義が終わったころ、若い聴講生にも「感性の声」が聞こえただろう。

光原 朋秀



制作統括 城谷 厚司(NHK)
演出(1-3話) 西谷 真一(NHKエンタープライズ)
演出(4,5話) 石塚 嘉(NHKエンタープライズ)
原案 菱田 信也 / 脚本 梶本 恵美
音楽 haruka nakamura
制作統括 訓覇 圭(NHK)

土曜ドラマ 「ひきこもり先生」

NHKエンタープライズ / NHK 総合

受賞者コメント

スタッフとキャストの進む熱が奨励賞に繋がったのだと思います。百人に一人が「ひきこもり」と言われる現代日本。去年の放送時も「新型コロナ」は大きな問題となっていました。精神的にも肉体的にも「籠もる」ことを余儀なくされた時代に、私たちは「死なないうで生きよう」という熱いメッセージを送ろうと思いました。そして多くの人々から伝わったという言葉もいただきました。同志となった佐藤二朗さんにも感謝の念が絶えません。

演出 西谷 真一
(NHKエンタープライズ)

講評

人は簡単に変わる事は出来ないし、どうしてもなく暗闇で苦しむ瞬間だってある。でも、「苦しみ」を知っているから、誰かに寄り添う事ができる。そんな主人公・上嶋の姿は、多くの共感を呼び、励まされた方も多かったろうと想像します。佐藤二朗さんの全身全霊でのお芝居に感嘆し、STEPルームの脆くて遅い生徒役の皆さんの熱演にも心動かされました。誰もが「生きていける場所」は必ずあると、希望が芽生える作品でした。

宇石 瑞穂



制作統括 高城 朝子(テレビマンユニオン)
樋口 俊一(NHK)
演出 瑠東 東一郎(メディアアルボ)
岡下 慶仁(テレビマンユニオン)
石井 永二(テレビマンユニオン)
原作 オダトモヒト(出版社:小学館)
脚本 水橋 文美江(ゆとり)
音楽 瀬川 英史(ミラクル・バス)
主題歌 aiko (ポニーキャニオン)

よるドラ 古見さんは、コミュ症です。

テレビマンユニオン / NHK 総合

受賞者コメント

日本人の約7割がコミュニケーションが苦手、という総務省のデータがあります。だからでしょうか、放送の度にTwitterのトレンドで1位、2位にランクインし、ネット上には共感のコメントが溢れました。実はこの現場、キャストの皆さんが一つ一つの言葉と真摯に向き合って下さり、度々スタッフとの話し合いの場が設けられました。この素晴らしい賞を頂けたのは、そんなキャスト・スタッフの誠実さの結果だと感謝しております。ありがとうございました！

プロデューサー 高城 朝子
(テレビマンユニオン)

講評

『コミュ症』という一般的にはネガティブに捉えられがちな題材を、楽しく前向きに描いた作品。コミュニケーション障害のほか引きこもりや潔癖症など、それぞれ悩みを抱えた登場人物たちが友情を築き一歩踏み出していく姿を、ユーモラスにまた温かく描いた点が素晴らしい。多様性が求められる今、重くならないがちなテーマに向き合い、不器用な登場人物たちを明るく魅力的に描いたスタッフ・キャストの努力に敬意を表したい。

加藤 章一



原作者 伊藤 理佐
脚本・演出・プロデューサー 山口 雅俊(ヒント)
企画 市野 直観(東海テレビ)
エグゼクティブ・プロデューサー 宮川 朋之
(日本映画放送)
プロデューサー 遠山 圭介(東海テレビ)
塚田 洋子(日本映画放送)
藤井 理子(日本映画放送)
森 正文(ヒント)

おいハンサム!!

ヒント、日本映画放送 / 東海テレビ・フジテレビ系列

受賞者コメント

連続ドラマ「おいハンサム!!」をほめていただき光栄です。吉田鋼太郎さんを座長とするキャストの皆さん、スタッフや原作の伊藤理佐さんに支え助けてもらいながら世に送り出した作品が、立派な賞をいただき嬉しです。「おいハンサム!!」の世界はまだまだ続きますので、引き続き伊藤家をよろしくお願します。

脚本・監督・プロデュース 山口 雅俊
(ヒント)

講評

自分の家のすぐ隣に暮らしていそうな、平凡な一つの家族の滑稽にも温かい日々が見ていて楽しく、心に沁みる良質な作品でした。各話の中で大きな展開を求めてしまいがちの連ドラにおいて、小さな、けれども大切な要素がそこかしこに散りばめられた構成が見事で、登場人物たちが現実にも不器用に抵抗し変化していく様も愛おしかった。『日常』という難しいテーマをこんなにも豊かに表現された制作者の皆様へ敬意を表します。

宇石 瑞穂



原作者 染井 為人
脚本家 前川 洋一(マツ・カンパニー)
音楽 海田 庄吾
監督・総監修 中田 秀夫
監督 谷口 正晃(アンドリーム)
チーフプロデューサー 青木 泰憲(WOWOW)
プロデューサー 廣瀬 真子(WOWOW)
黒沢 淳(テレパック)
三本 千鳥(テレパック)

連続ドラマW 正体

テレパック / WOWOW

受賞者コメント

「優しさは、必ず真実へたどり着く」というエモーショナルな逃亡劇を評価して下さり光栄です。染井先生の原作、前川先生の脚本、海田先生の音楽、中田監督と谷口監督の演出、すべてが魔法の様に素晴らしい、相乗効果で日本一のスタッフ達が集結。寒中ロケをものもしない亀梨和也さんの名演を受けて立った全キャストがまた名演！奇跡を支えてくださったWOWOW青木CP、廣瀬P、弊社の三本Pほか関わってくださったすべての方に大感謝です！

プロデューサー 黒沢 淳
(テレパック)

講評

殺人の罪で収監されていた死刑囚の脱獄逃亡サスペンスと、悲しみを抱えた登場人物たちの人間ドラマを絡み合わせた骨太の力作。殺人事件の秘密を探っていく謎解きの面白さと、逃亡中の主人公が会う人々を救っていくという展開を、それぞれのエピソードで1話1話きちんと描き、緊迫と感動を絶妙な配分で収めたパッケージが秀逸だった。緻密で重厚な演出やベテラン俳優陣たちの安定感のある演技など、プロの底力を感じた。

加藤 章一

最優秀新人賞 & 優秀新人賞

BEST NEWCOMER AWARD



ディレクター
竹内 みなみ
(TBSスパークル)



ザ・ノンフィクション
山奥ニートの結婚
フジテレビ

チーフ・プロデューサー 西村 陽次郎(フジテレビジョン)
プロデューサー 尾賀 達朗(TBSスパークル)
ディレクター 竹内 みなみ(TBSスパークル)



受賞者コメント

この度はこのような素晴らしい賞をいただきありがとうございます。この番組は、1年間、東京と和歌山を行き来しながら撮影しました。番組を完成することができたのは、シェアハウスで出会った2人が結婚し、出産・育児をするという、その全てを撮影させていただいたことにあります。特に出産前から出産後の約1カ月は、私も一緒に泊まり込んで撮影をしました。その時々の変化や心の動きを撮ることができたのは、とても幸せでした。

ご家族は、現在もシェアハウスで暮らしていて、住人たちに見守られながら子育てをしています。シェアハウスでの子育ては、あまり前例のないことですが、子育てに正解はないと思いますし、これからも応援したいと思います。まだまだ未熟ではありますが、今回いただいた賞を励みに、より取材者の方に寄りそった番組作りができればと思います。ありがとうございました。

講評

どんな生き方をしても人が成長する瞬間は無限にあることに気づかされる。なかなか踏み込みにくいニートの集団生活、結婚・出産というデリケートなテーマの中でいかにリアルな本音を引き出すか、その苦労は想像に難くない。1つ1つの出来事がもたらす変化を粘り強く取材したディレクターの手腕と、さらに人柄も一役買ったことだろう。欲をいえば出産後の本人・周囲への影響が駆け足だったので、もう少しじっくり見たかった。

桑山 ゆうり



優秀新人賞

EXCELLENCE NEWCOMER AWARD



ディレクター
加藤 涼 (クリーク・アンド・リバー社)



撮影 西川 亮(ytv Nextry)、大中一(読売テレビ放送)
編集 秋山 進吾(ytv Nextry) / EED 赤羽 直樹(マウス)
音効・MA 久保 秀夫(戯音工房)
ディレクター 加藤 涼(クリーク・アンド・リバー社)
プロデューサー 吉川 秀和(読売テレビ放送)
チーフプロデューサー 堀川 雅子(読売テレビ放送)

NNNドキュメント'21

みのだん ~夢・コロナ・青春 大阪・強豪ダンス部の1年~
読売テレビ

受賞者コメント

優秀新人賞に選出いただき、ありがとうございます。コロナ禍により「部内の集団感染」「出場辞退」などと伝えられるニュースの裏側には、積み重ねた努力や喜び、理不尽にも青春の大舞台を奪われた理不尽な悔しさがあること

を、取材の中で知りました。辞退の瞬間や、その後の挑戦…ありのままを見せてくれた箕面高校ダンス部「みのだん」の皆様、そして撮影、編集のスタッフに感謝しながら、今後も制作を続けていきたいと思っています。

講評

現場を積み重ね、良いディレクターになれるはず。それはきっと間違いではないと思う。しかし、この作品を見て大事なことに気付かされる。「今しか撮れないモノ」がある。24分という短い時間で描かれる、高校生たちの濃密な1年間。青春とは、あっという間に過ぎて

いってしまうのだ。そこにカメラを持って立ち会うことができるのもディレクターの実力である。そしてその映像には高校生たちにも負けない、瑞々しさがあった。

榎本 雪子



ディレクター
真壁 優仁 (ネツゲン)



プロデューサー 森山 智巨(ネツゲン)
ディレクター 真壁 優仁(ネツゲン)

ザ・ノンフィクション

母と息子のやさしいごはん
フジテレビ

受賞者コメント

母・貴美子さんがポロッとこぼした息子・大貴さんへの思いに、並々ならぬ強さを感じ、「この親子を撮りたい」と思って始まった取材でした。この番組を初めて作る自分に対して、快く受け入れてくださった飯田家の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

生きづらさが多様化している世の中で、必死にお互いの幸せを探しとめる家族の姿が伝わってほしいと願います。そして、このような素敵な賞をいただき、本当に嬉しく思います。

講評

「他人が怖い」と言う彼とそれを一番に分かっている母。その親子の間に立ってカメラを回すことによって生まれた、もう一つの目線。それは、等身大にまっすぐと彼と向き合う他人(取材者)の目線である。番組の中で語られていた、閉ざした彼には「友達が1人もいな

い」という話。それが事実であるのなら、真壁ディレクターは初めての友達ではないだろうか。ラスト、カメラに映る彼の表情を見て、そう思った。

榎本 雪子



プロデューサー
三本 千晶 (テレパック)

連続ドラマW
正体
WOWOW

受賞者コメント

8月、主演の亀梨さんのカツラ採寸から始まり、約2ヶ月間の撮影、そして今年1月まで続いた編集作業。姿や名前を変えて逃走を続ける鶴木の人生を届けるため、素晴らしいスタッフ、キャストの皆様と約半年間走り続け

ました。リアリティーのある作品作りを目指したことがこのように評価され、とても光栄です。この度は本当にありがとうございます！

講評

キャストからスタッフ、関わった全ての人に拍手を送りたいほど全てが巧みだった。社会派ドラマなのに、最後には心が浄化された気持ちになる不思議な作品。登場人物の心情を、多くのセリフに頼らずに視聴者に委ね、読解、想像させる画力が圧巻。それは視聴者の観る

力を信じて作っているからこそ手法。このクオリティで、新人賞とは将来が恐ろしい。彼女が世の中に対して何を考えどんな作品を生み出すのか今後が非常に楽しみです。

荒河 七子



原作者 染井 為人 / 脚本家 前川 洋一(マツ・カンパニー)
音楽 海田 庄吾 / 監督・総監修 中田 秀夫
監督 谷口 正晃(アンドリーム)
チーフプロデューサー 青木 泰憲(WOWOW)
プロデューサー 廣瀬 眞子(WOWOW)、黒沢 淳(テレパック)
三本 千晶(テレパック)



プロデューサー
澤田 和平 (共同テレビジョン)

経験は知識に勝るのか!?
クイズ!カズ&宇治原をぶっ飛ばせ
関西テレビ、関西ローカル

受賞者コメント

この度は、優秀新人賞に選出頂きまして本当にありがとうございます。入社13年目、これまで様々な番組でご指導を頂きました全ての皆様のおかげです。そして何より、今回取材にご協力頂いた経験者の皆様、出演者の皆様、制

作者チームの皆様、番組に携わって下さった全ての皆様、本当にありがとうございました。この経験はきっと私の拙い知識にも勝る！と信じています。

講評

各分野のエキスパートを取材して発見した「クイズ」で、2人を打ち負かすという斬新な企画。専門性が強過ぎると視聴者は離れてしまうものだが、「クイズを見つけるストローク」で観る者を惹きつけ離さない。画力を打ち出しにくいものも、取材対象者と取材Dの軽

妙な掛け合いで臨場感を上手く出すなど、随所で優れたバランス感覚を感じ取れた。クイズ番組なのにロケバラエティを観たような充実感があり、継続的に観たくなる番組。

加藤 信

プロデューサー 脇田 直樹(関西テレビ放送)
澤田 和平(共同テレビジョン)
総合演出 吉川 亮太(関西テレビ放送)
演出 吉村 慶介(共同テレビジョン)
ディレクター 山本 泰輔(オラフズ)、阪口 悠樹(オラフズ)、
岩野 直人、新谷 辰雄
構成 竹村 武司、河野 有、市川 拓実、仲内 力也



プロデューサー
山本 あづる (東映企画)

スペシャルドラマ
禍話
朝日放送テレビ

受賞者コメント

優秀新人賞、ありがとうございます。ホラー好き人間たちによるホラーを多くの方にご覧いただけて感無量です。「禍話」は私にとって初プロデュースした、かけがえのない作品。関係者の皆様に幾度も助けられながら仕上げま

した。ドラマ化を快諾して下さった原作のかあなつきさん、加藤よしきさん、企画の面白さをどこまでも信じて下さった後藤監督、脚本家の酒巻さん、ABCテレビの矢内さんをはじめ、皆様にお礼申し上げます。

講評

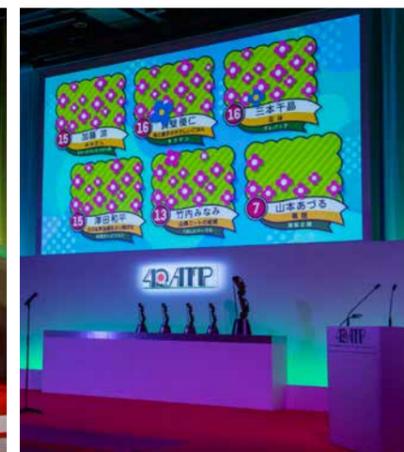
ホラー作品が苦手な人も見るのをやめられない、そんな吸引力がある。あえて説明をせず疑問を残す手法が怖さをより引き立たせ、見事な臨場感に。グロテスクな部分では、いかに直接的に見せず表現するか制作者の工夫を感じた。初プロデュースのオリジナル作品とは思

えない完成度、センスは素晴らしいと思う。誰もが平和な日常がある日突然恐怖に変わるかもしれない、その可能性に気付かされ、1日1日を大事に生きようと思う。

桑山 ゆうり



原作 かあなつき、加藤よし / 脚本 酒巻 浩史(CRG)
音楽 南方 裕里衣(カレント)
主題歌(作詞) Yunka (ブラジヤナエンターテイメント)
主題歌(作曲) 草部 礼己(ブラジヤナエンターテイメント)
監督 後藤 庸
プロデューサー 矢内 達也(朝日放送テレビ)
山本 あづる(東映企画)





プロデューサー
奥村 麻美子 (ホリプロ)

ドラマ24 **スナック キズツキ**
テレビ東京



原作 益田 ミリ
脚本 今西 祐子(アンドリーム)
監督 湯浅 弘章

受賞者コメント

この度は奨励新人賞をいただき誠にありがとうございます。誰だって些細なことに傷ついたり、そして知らず知らず誰かを傷つけていたりしているもの…そんなもやもやした心が少しでも軽くなっただけという想いで制作しました。このドラマで賞をいただいたことを嬉しく思うと同時に大変身の引き締まる思いです。改めてキャストの皆さま、スタッフの皆さまに感謝申し上げます。そしてこれを励みにより一層精進してまいります。

講評

キャラクターを丁寧に描き、物語に愛を持てる作品だった。雨のようにまっすぐ生きたいと感じる原田知世さん演じる主人公トウコが何よりも愛らしく、傷つき悩んでいる女子高生の背中を押すセリフが「距離にしたら50cm、一歩前に出るだけ」というのも印象に残るものだった。ドラマを見終わった後は、そっと慰めてくれて心が少しだけ軽くなるような、胸の奥がじんわり温くなるヒーリングドラマだと思った。

荒河 七子



ディレクター
中川 奈緒 (東阪企画)

帰省代行! ザキヤマがいく〜!!
BS日テレ



ディレクター 嶋崎 良介(東阪企画)
中川 奈緒(東阪企画)
演出 細矢 俊明(東阪企画)
プロデューサー 佐藤 明香(BS日テレ)
大森 蘭(東阪企画)

受賞者コメント

この度はこのような賞をいただき、誠にありがとうございます。今回受賞したことをたくみさんとまなぶさんのご実家に報告すると、とても喜んでくださって、お祝いにメロンを贈っていただきました。改めてご家族の温かさを感じたとともに、この番組で取材できたことが嬉しかったです。最後に、番組に携わっていただいた皆様に感謝申し上げます。そして、今回の受賞に負けぬよう、今後ともより良い番組作りを目指し精進して参ります。

講評

コロナ禍の厳戒態勢の中、急に飢餓感の高まった「帰省」というワード。そんな世論にうまく応え、改めて故郷のよさを感じさせる内容だと思う。作り手が敬意や気遣いを怠らず丁寧に準備したからこそ、演者が自由に動きまわり、軽快なテンポ感と嫌味のない笑いが生まれたのだろう。同テーマ番組とより差別化するため、この番組ならではの帰省依頼者のキャスティングでぜひ見てみたいと思う。

桑山 ゆうり



ディレクター
原田 寛太 (NHKエデュケーショナル)

半分だけで考えてみた!
NHK BS4K



ディレクター 原田 寛太
(NHKエデュケーショナル)
制作統括 大古 遼久
(NHKエデュケーショナル)
漆山 真生(NHK)

受賞者コメント

経験のない長尺の番組は苦難の連続。中でもピアノの鍵盤を半分にする企画ではピアニストとの打ち合わせで「やってみないとどうなるかわからない」と言われ、番組が成立するのか正直不安でした。しかし試行錯誤を重ねてグレードアップしていくプロの姿に「人間ってすごい」と思うと同時に、私自身がテレビ制作者のプロとしてどうありたいかを考えさせられました。今後番組制作への情熱は“半分”と言わず、全力をかけて参ります。

講評

世の中のさまざまなことを半分にして考えてみるという、企画発想が何よりも面白い。非常にクオリティが高く、構成作家を入れずに本作を作ったことに驚いた。将来がとても楽しみだ。4つのテーマの内容も、素晴らしい構成。本作を見て、世の中にあるものや考えを「当たり前と思っちゃいけない」「発想力を持ち続ける」ことの楽しさを教わった気がする。またエンジン半分の話など新たな発見もあり、飽きない作りだった。

荒河 七子



ディレクター
篠田 龍之介 (NHKエデュケーショナル)

発酵大国につぼん
NHK BS4K



ディレクター 篠田 龍之介
(NHKエデュケーショナル)
プロデューサー 井上 勝弘
(NHKエデュケーショナル)

受賞者コメント

「菌と土地の声を聴く」というテーマで、日本各地を飛び回った半年間。氷点下の深夜に秋田県北部の沿岸で撮影したハタハタ漁や、風と波の影響で何度も渡航を断念した青ヶ島での撮影など、多くの困難がありました。それらを乗り越えたとき、少しだけ菌たちの声が聴こえたような気がしました。取材の段階から多大なるお力添えを下さった小倉ヒラクさん、そして各地で温かく迎え入れて下さった出演者の皆様に深く感謝いたします。

講評

日々食卓に並び、私たちの生きる源となっている発酵食品。その発酵のプロセス、そして発酵を取り囲む世界が美しく丁寧に描かれている。それは決して言葉では表現できない、映像や音、臭いが漂ってきそうな、感覚的な美しさである。その発酵の魅力に制作者が惚れ込んでいることが画面越しに伝わってきて、麹菌が繁殖したかのように、私もすっかり取り憑かれてしまった。

榎本 雪子



ディレクター
石田 りか (NHKエデュケーショナル)

レギュラー番組への道 あつまれ!数ぼよ。
#1 吹石一恵・西垣匠/#2 佐藤大樹・長井短
NHK BSプレミアム



ディレクター(第一話) 井出 有吉(APPARE)
ディレクター(第二話) 石田 りか
(NHKエデュケーショナル)
編集(第一・二話) 森藤 晴(Fix)
音響効果(第一・二話) 磯田 正文
(D3プロジェクト)
プロデューサー(第一話) 吉村 恵美
(NHKエデュケーショナル)
制作統括(第一話) 齋藤 大輔
(NHKエデュケーショナル)
プロデューサー(第二話) 齋藤 大輔
(NHKエデュケーショナル)
制作統括(第二話) 吉村 恵美
(NHKエデュケーショナル)
制作統括(第一・二話) 川添 哲也(NHK)

受賞者コメント

この度はこのような賞を頂き、ありがとうございます。「数ぼよ。」チームの齋藤さん、吉村さん、井出さん、制作スタッフの皆様、ご出演者の皆様に心より感謝いたします。「数学ってこんなに面白い!」ということの皆様から教わったことがきっかけでこの番組ができました。早く取材を引き受けて下さった皆様のご協力とご期待を、このような形でお返しできたことを嬉しく思います。この経験を宝物にし、今後とも精進して参ります。

講評

敬遠しがちな数学の世界を日常生活に落とし込み、バラエティ番組として見事に組み上げた。アラビア数字やアルファベットが羅列されるのかと思いきや、そうではない。どれも我々が普段生活の中で、見て触れるものばかり。「ここに数学があったんだ!」という発見が快感になる。出演者の“数ぼよ。”な一面も楽しい。難しい用語が頻出する中、テロップやイラスト構成に逃げず、現場の撮影素材での絵作りにこだわりを感じた。

加藤 信



ディレクター
三ヶ尻 萌恵 (テレコムスタッフ)

黄昏高原診療所
NHK BSプレミアム



ディレクター 三ヶ尻 萌恵(テレコムスタッフ)
プロデューサー 街風 建雄(テレコムスタッフ)
中村 光博(テレコムスタッフ)
チーフプロデューサー 星井 渉(NHK)
伊藤 彩
(NHKグローバルメディアサービス)

受賞者コメント

「飯田高原の美しい風景を作るのは、飯田高原で働き続ける高齢者たちです」と野瀬医師にたくさんの村人を紹介していただきました。村人たちの何気ない日常の暮らしに野瀬医師が加わることで豊かになっている飯田高原が大好きです。スタッフの皆さん、ありがとうございます。地元・大分県の番組を制作できたこと、帰る場所が増えたこと嬉しく思います。飯田高原の皆さん、今後ともよろしくお願ひします!

講評

「縁も所縁もない地で、この医師はなぜここまでするのか?」その答えを、あえて語らせなかった事が番組に奥行きを与えた。起伏を作る事が難しい内容だが、些細な出来事も丁寧に紡いでいる。ナレーションやテロップを最小限に留め、生き活きた同録や一枚で四季を感じる画を選び抜いていた。医師が運転する車を実景と共に捉えたカットが印象的で、地域に溶け込んでいる医師を象徴するなど、ディレクターの静かな情熱を感じた。

加藤 信

総評

COMPREHENSIVE EVALUATION

どんな時代でも
「伝えたい思い」を
我々制作者は欠いてはいけない



審査委員長
松葉 直彦

2年を超えるコロナ禍によって、制作現場は様々な制限を強いられました。しかし同時に、作り手の矜持や哲学を感じる作品とそうでないものに、明確に色分けされようと感じます。どんな時代でも状況でも、「伝えたい思い」を我々制作者は決して欠いてはいけない。

そんな思いを軸に今年度の審査を行いました。

最優秀賞については3部門とも、審査員の評価が集中し、受賞作はアタマ一つ抜けた存在感を放ちました。そこからの第二グループが大混戦。限られた賞に値すべき企画性は？取材力は？熱量は？…と時間の許す限り議論を尽くしました。

中でもドキュメンタリー部門は最多の75作品が言わば“玉玉混交”。審査員の評価が分かれたものの、最終的には「現場で何が撮れたのか？」を最も重視。一方、情報・バラエティ部門は、パッケージ感重視ゆえ小さくまとまった感が否めず、正直審査にはかなり時間を要することに。企画力や作り手の覚悟次第で「発明」が最も期待できるジャンル、今後に期待したい。ドラマ部門は、テーマも世界観も多様性に富んだ秀作、意欲作が並び、これまた“嬉し難し”の審査となった。特筆すべきは、新人賞受賞者の作品が複数、本賞受賞となったこと。ベテラン勢の手練れの作品に割って入る若いチカラが確実に育っている証に他ならない。

応募全160作品、総尺12000分余り。それまで知り得なかった事実や歴史、新たな物語、新たな面白がり方、人の機微…何でも伝えてくれるテレビは、映像コンテンツは、不要不急ではない！と改めて確信を持たせたことに深く感謝申し上げます。

特別賞

SPECIAL PRIZE

中尾 幸男 (ATP第7代理事長 / C.A.L元社長)



ご長女の中野亜衣さんにトロフィーを受けとっていただきました

受賞者コメント

受賞に際し、心から感謝と御礼申し上げます。子供の頃からずっとテレビの仕事がしたかった、と父はよく言っていました。「ニュースステーション」や「水戸黄門」など、さまざまな番組企画やプロデューサーとして、好きな仕事を夢中に約半世紀も続けられ、そして最後にこのような賞まで頂き、父は幸せだったと思います。お酒の場も好きだった父、天国でお酒をのみながら今でもテレビの話で盛り上がっていることでしょう。

遺族代表(長女) 中野 亜衣

推薦理由

「ニュースステーション」の立上げや「水戸黄門」などの人気番組を手掛け、2008年にはATP理事長に就任し、製作会社の地位向上と民間放送事業発展に尽力されました。これらの多大なる功績に対して 特別賞を贈呈いたします。

総務大臣賞

MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND COMMUNICATIONS AWARD



特集番組
明鏡止水
～武のKAMIWAZA～
五の巻 弓馬の道・居合

制作統括 植原 智幸(NHK)、森脇 雅人(NHKエデュケーショナル)
プロデューサー 早川 淳(キュリアスプロダクション)
演出 東 正記(キュリアスプロダクション)、小野 貴之(キュリアスプロダクション)
題字 唐沢 美智子(書道家)

受賞者コメント

栄誉ある賞を賜り大変光栄です。人間の潜在能力を最大限に引き出す武術、それを守り伝える達人と呼ばれる人々は、日本の誇りであり、人類の宝です。身体を通して人間の可能性を切り開く実践哲学であり、「心と体」「自己と他者」「自己と環境」の関係性を思索する、現代性と普遍性を内包しています。「明鏡止水」は一人でも多くのみなさまに武術を再発見していただくことを目指してこれからも努めてまいります。

制作統括 森脇 雅人
(NHKエデュケーショナル)



● ドキュメンタリー部門 ●

過去5年で
最多応募本数
制作環境悪化も
頼もしい

10年後のドキュメンタリーを作っているのはディレクターか？ AIか？ そんな視点で作品群を拝見した。まず応募数は75本と過去5年で最多となった。制作環境が悪化している現状で頼もしい。真珠湾攻撃から80年ということもあり戦争モノが多かった。折しもウクライナ侵襲。人類は歴史から何も学んでいないのは滑稽だ。その他LGBT・特別養子縁組・婚活…と多彩なジャンルの力作が続く。一方でディレクターの存在感が希薄な作品も見受けられた。感染対策のため、取材対象者からの提供映像で構成されていることも一因か。来年はコロナも収束するだろう。制作者の魂の叫びに期待したい。ドキュメンタリーの担い手は常に生身の人間なのだから。

審査委員 三井 美貴也

● 情報・バラエティ部門 ●

現状に満足せず
アイデアを
追い求める姿勢に
心打たれた

「素敵で有意義な時間をありがとうございました」審査に携われる幸せに御礼を申し上げます。映像に対する感性を今一度、奮い立たせてもらいました。働き方改革、コンプライアンス重視、効率化を求められる時代の中、今の社会情勢を見極めての企画立案、人々の記憶に残る作品を制作する気概、コロナ禍を乗り越える創意工夫、制作者が現状に満足しないでアイデアを追い求める姿勢に心を打たれました。情報・バラエティ部門の審査は非常に難しいです。この作品はドキュメンタリー部門への応募が正しいのでは？と疑問に思うことも多々あります。審査基準は面白い、感動するとは別に、“作り手が時代を読み取るチカラ”を備えているのかを加味し、審査をさせてもらいました。これから先も多種多様なコンテンツに巡り合えるワクワク感が止まりません！

審査委員 長濱 薫

● ドラマ部門 ●

ストーリー・テリングの
手法の
大きな変化を感じた

どれも企画性に富んだ作品が多く、その力作・名作に優劣をつけるのが極めて難しい作業であった。強く感じたのは配信を意識したのか、ステレオタイプ化を避けるためか、ストーリー・テリングの手法は大きく変化していると感じた。物語のセットアップはできるだけ簡略化し、見せたいクライマックスを積極的に見せるというような構造の作品も多くみられた。また、キャラクター設計に於いても、これまでの擬人化やハンドのポジティブ化の自主規制ボーダーを超えた作品たちが多く、制作者たちのエネルギーを強く感じる。こういったアイデアや表現技術に優れた作品たちが、流通プラットフォームの壁を越えて海外でヒットしてくれることを切に願う。

審査委員 霜田 一寿



新人賞審査委員長
大野 光浩

社会に何かを発信したいと挑戦する
若きクリエイター達を応援したい

時代と共に職業観が変化するのは当然の事であろう。昨今、安心・安定を望む若者が多いと言われ、番組作りの改革も進んでいるが、いつの時代も人の心を深く打つ作品には誰かの強い思いと、とてつもない努力が不可欠である。それでも社会に何かを発信したいと挑戦する若きクリエイター達全てを応援したい。そんな思いで

審査した。応募は15作品、今もコロナに人生を左右される人々や、心の癒しをテーマとした作品もある中、もはやそれを意識することなく楽しめるバラエティーも増えた。社会の状況が変化中、今こそ好きな事を突き詰めようとしているように見え、頼もしく思った。来年はさらに多くの応募を期待する。



総務大臣賞審査委員長
吉村 文雄

日本人の精神性への理解深める作品として
世界で視聴されることを期待

本年度の総務大臣賞の候補作には、いずれもNHKで放送された6作品が推薦されました。真珠湾攻撃に携わった900名の搭乗員たちとその母や妻たち「女性」のその後の物語を丹念な取材で描いた「真珠湾80年 生きて愛して、そして」、原発事故後、取り残された動物たちのために故郷に留まり続けた一人の男性の日常を追い続けた「BSIスペシャル 福島モノローグ 完全版」、江戸歌舞伎の大スター中村仲蔵の半生を綿密な考証による当時の芝居小屋の再現と併せてドラマ化した「忠臣蔵狂詩曲No.5 中村仲蔵 出世階段」、横浜の名所をアカベラの「響き」で紹介する切り口が秀逸な「22.2chで楽しむ 日本エコー遺産 ゴスペラーズの響歌」、武術の奥義である「神技」を軸に人間の心と体の潜在能力に迫るトークバラエティ「明鏡止水〜武のKAMIWAZA〜」、日本人にとって特別な桜の季

節を桜の歌にまつわるエピソードと共に紹介する「新日本風土記スペシャル『さくらの歌』」の中から、「忠臣蔵狂詩曲No.5 中村仲蔵 出世階段」、「明鏡止水〜武のKAMIWAZA〜」、「新日本風土記スペシャル『さくらの歌』」の3作品を総務大臣賞候補とし最終審査を行いました。いずれも「海外の評価に耐えうる個性的な演出」という選考基準を満たす素晴らしい作品ではありましたが、議論の結果、自らも武術の心得があるMCの岡田准一さんと様々な武術の達人たちが語り合いながら神技の実演と取材VTRを交えて“武術の神髄”を紹介する知的興奮に満ちた斬新な演出が際立つ「明鏡止水〜武のKAMIWAZA〜」が総務大臣賞受賞作として選出されました。武道・武術の紹介を通して日本人の精神性への理解を深めていただける作品として広く世界で視聴されることを期待いたします。

総務大臣賞 ノミネート作品

● ドキュメンタリー部門 ●

BSIスペシャル 福島モノローグ 完全版
BSIスペシャル 真珠湾80年 生きて愛して、そして

● 情報・バラエティ部門 ●

新日本風土記 スペシャル「さくらの歌」
22.2chで楽しむ 日本エコー遺産紀行 ゴスペラーズの響歌 ～横浜の響き～

● ドラマ部門 ●

忠臣蔵狂詩曲No.5 中村仲蔵 出世階段